

学力向上の取り組みNEWS

～共に学ぼう、共に高め合おう～

教師の役割が変わる？

時代の流れに合わせるように、教師の役割も変化してきています。これまでの教育は、どちらかというと「先生が、何を教えるか？」が非常に重要でした。つまり「上手に教科書を教える時代」でした。しかし、来年度から実施される新学習指導要領では、「生徒が何をできるようになるか？」が重要視されています。様々な研修や大学の教授からも「教師＝教える人」から「生徒の学びを支える人」へと変化するように求められています。一中の職員も「生徒がこんな力を伸ばし、こんなことができるようになってほしい」という思いを大切に、日々の授業を計画している最中です。

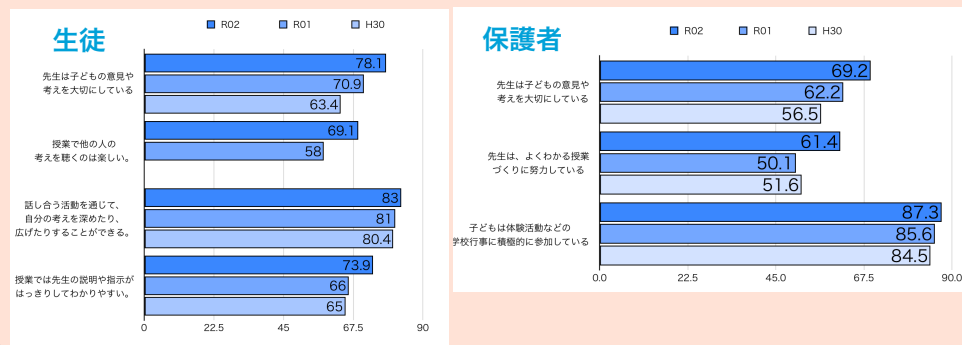
iPadを有効活用

「生徒がこんな力を伸ばし、こんなことができるようになってほしい」という力の中で一中が特に大切にしていることは「自分の意見や考えに自信を持って発表できるようになってほしい」ということです。総合的な学習の時間を中心に、各学年が様々な教科と協力して、発表資料を作成したり、根拠を持って説明したりする場面を設定しています。そしてその資料作りにはiPadが活用されています。子どもたちのiPadにはたくさんの「自分の考えや表現」が詰まっています。ぜひ、ご家庭でもお子様のiPadに詰まった作品と一緒にご覧になっていただきたいと思います。

協働的な学びで得られる力

一中では4人班を基本とした班学習を進めています。班で協力して課題を解決したり、互いに教え合うことで支え合ったり、学び合ったりしています。ある生徒は「学校でしかできない学びってなんだろう？」という質問に対し「他者の考えを聞いて、自分の考えを深めること。自分ひとりで『きっとこうだろう』と考えたことも、たくさんの意見を聞くことで新しい発見がある」と答えてくれました。協働的な学びを文部科学省は「子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び」と定義しています。ある大学の教授は教師に向けた講演会で「社会に進出しても、1人で問題解決することは少ない。義務教育の時期からチームで解決する力を養うことで、子どもたちに新たな時代を生き抜く力を」とおっしゃっていました。新しい授業方法や学び方に少し戸惑うこともあるかと思いますが、アンケートからも多くの生徒が協働的な学びで力をつけてくれていると感じています。

R02学校アンケート肯定的回答



一中の取り組みが紹介されました

文部科学省が共催する「eスクールステップアップ・キャンプ2020（2月6日）」で一中のiPadの取り組みが紹介されました。様々な教科でプレゼンアプリ「keynote」を使って生徒が自分の考えを発表する取り組みが全国に発信されました。iPadが導入されてから全ての学年で「keynote」を使用した取り組みが進んでいます。高校に進学しても必要なスキルです。お子様の作品をご覧いただき、ご家庭でもより良い資料づくりにアドバイスを送っていただけると幸いです。

